



教育 | 医療と介護 | 住まい | 大手小町 | 旅行 | グルメ | クルマ | ネット | しごと | 読書 | エンタメ



ホーム | 社会 | スポーツ | マネー・経済 | 政治 | 国際 | 環境 | 科

山梨トップ | 企画・連載 | 山梨の写真 | 山梨の天気 | イベント情報 | リンク | 取材網 | 読売グループ

ホーム > 地域 > 山梨

天気 | 地図 | ショッピング | 雑誌 | 交通 | 映画 | 写真 | 動画 | データベース | サイト案内

果樹剪定枝から燃料油

山梨市で実証実験へ

山梨市は、地元特産のブドウ、モモの剪定枝(せんていし)から油分を取り出し、燃料を精製する実証試験を始める。果樹地帯ならではの木材資源からボイラーや自動車の燃料を生み出し活用する「地産地消モデル」の確立を目指す。

市環境課によると、市内では毎年約5300トンの果樹剪定枝が出るが、多くは焼却処分されている。剪定枝をプラント内でくず化し、マイクロ波で瞬時に470～500度の高熱をかけると、含まれている油分を搾り出せるという。その油から、都内の化学関連会社に委託して重油や軽油を精製する。

木材から油分を取り出すのは国内初の試みで、どの木材からどれくらいの油分が搾り出せるのかも研究課題となる。市は、今年度中にも同市南の市環境センター敷地内にプラントを設置し、稼働を始める。プラントでは1日あたり0.2トンの木材を処理でき、年250日間の稼働で、木材50トンのうち60～70%(30～35トン)が油として搾り出せるという。

この事業は、林野庁が今年度から公募を始めた「森林資源活用型ニュービジネス創造対策事業」に採択された。栃木県森林組合連合会が主体となり、山梨市と栃木県塩谷町、化学関連会社や研究機関が参加する。実施期間は2012年度までの5年間で、総事業費の5億円は林野庁が負担する。市では、果樹剪定枝を木質ペレットとして活用する計画も進めており、環境に優しい代替エネルギーの実用化に期待がかかる。

(2008年9月8日 読売新聞)

関連記事・情報

Powered by FreshEye

【鹿児島】曾於地区の子供たちに黒豚を使った給食 (9月6日)

【環境・生活】「地域活性の力に」シェフ結成「うましくに伊勢クラブ」 (8月8日)

【ニュース】社員食堂で地産地消 (7月30日)

新着おすすめ

地域ページ刷新！ピジ
[仕掛け人]花笠踊り発祥
[さんぽ]東京都慰霊堂

県内の天気予報

きょう 32 / 17 あす

県内各地の天気予報

yorimo トラフィック



PR情報

駅前複合再開発で生まい街。二子玉川ライズレジデンス

大成建設グループ[有:宅販売]住まいのご購入実施中！

地域

北海道 子育て日記
北陸 ひと紀行
中部 幸せの新聞
関西 大学新時代
九州 大分県教委汚職